

古館浄水場

あらまし

紫波町の水道は、昭和29年に日詰簡易水道として事業認可され、経営を開始したのが始まりです。その後、昭和31年に古館簡易水道が、昭和33年には片寄簡易水道が認可され給水を開始し、昭和35年に日詰、古館の両簡易水道事業を統合して紫波町上水道が創設されました。

昭和45年には既設の日詰揚水場を廃止し、第2次拡張事業にて二日町字御堂前の河川区域内に北上川の伏流水を水源とする取水井を設置し水量を確保。翌昭和46年には導水、送水等の配水池に至るまでの各施設を整備し古館浄水場が完成しました。また給水量の増加に対応するための配水池(容量1,000m³)を、向山の既設配水池に隣接し増設しました。

平成23年度には紫波町の基幹である古館揚水場の更新をはじめとする古館水源系の再構築に向けて公募型プロポーザルにより工事事業者を決定し、平成27年9月膜ろ過処理(処理能力4,000m³/日)による古館浄水場が供用開始、同年11月古館城山配水池(RC造2,100m³)を使用開始しました。平成28年3月古館浄水場通水式により落成しました。

事業方式

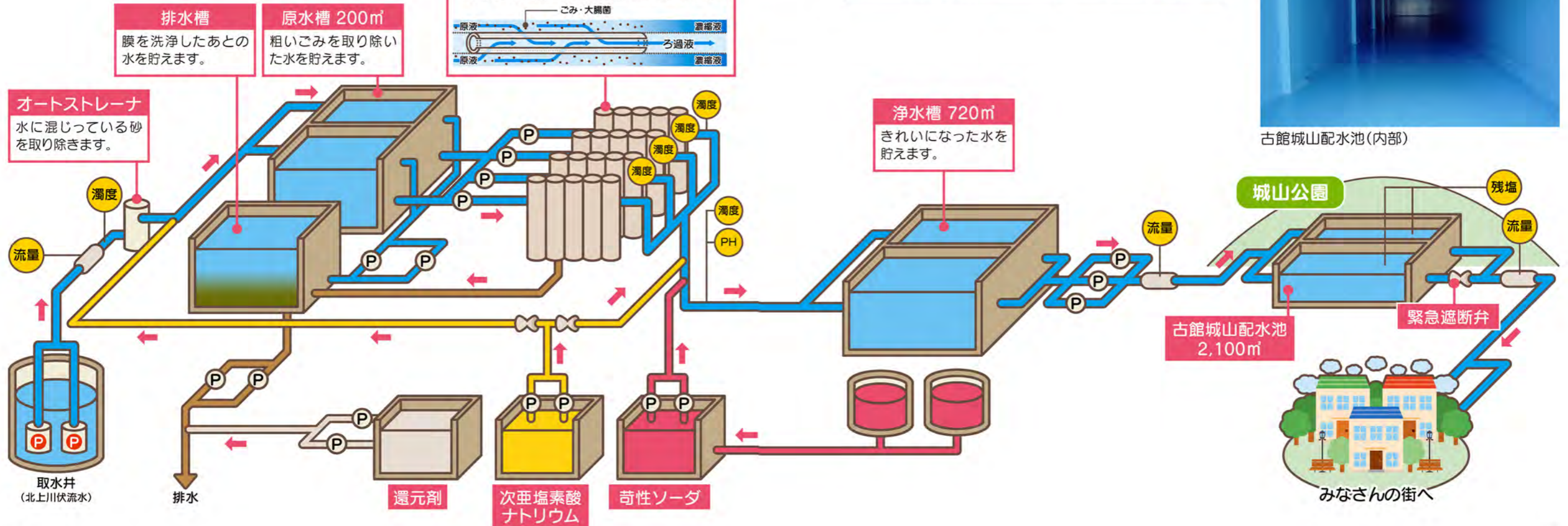
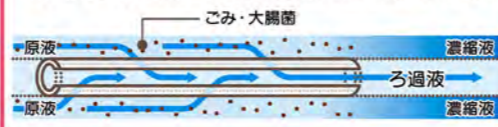
古館水源系施設更新工事の事業方式は、DBO(デザイン・ビルド・オペレーション)であり、設計・建設・運転保守管理を一括にて発注しています。運転保守管理は、水道法第24条の3に基づく第三者委託であり、水道施設の維持管理、危機管理体制の強化と業務の効率化を進めています。



浄水場全景

膜ろ過装置

ケース内にチューブ状の膜が並べられ、水が膜を通過することで、原水の中のごみや大腸菌を取り除き、きれいな水にしています。1万分の1mmより大きなごみを取り除くことができます。



浄水施設

古館浄水場は古館水源(北上川伏流水)を水源とし、処理は膜ろ過浄水処理方式を採用しています。膜ろ過浄水処理方式を採用したことにより、環境変化や北上川増水による水質変化に対応します。

主要諸元

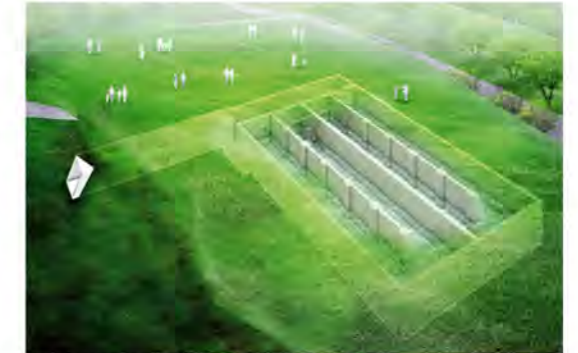
名称	古館浄水場	
水源	古館水源	
取水	取水ポンプ	2台
		φ150×15kW
導水	導水管	φ300mm L=295.4m
	ろ過方式	膜ろ過
	膜ろ過装置	4系列
	原水槽	2池
	浄水槽	2池
	排水槽	1池
送水	自家発電装置	1基
	浄水棟	1棟
	送水ポンプ	3台
配水	送水管	φ125×37kW
	配水池	φ300mm L=2127.8m
供用開始	古館城山配水池 平成27年9月	

施設能力

計画最大取水量	4,296m ³ /日
計画最大給水量	4,000m ³ /日



膜ろ過装置



古館城山配水池



古館城山配水池(内部)